

社会 入試分析

～入試ではこう出る!!～

【出題形式】

- 問1：世界地理
- 問2：日本地理
- 問3：歴史（古代～近世）
- 問4：歴史（近現代）
- 問5：公民（政治分野）
- 問6：公民（経済・国際分野）

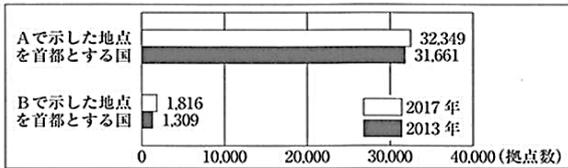
昨年同様に難しい。

出題の形式（大問数6）、構成（地理×2、歴史×2、公民×2）については例年通りで、字数の多い記述問題もない。がしかし、昨年同様に設問に工夫が施され、複雑化し、単純暗記では太刀打ちできない問題が多い。また、注意深く問題文を読まないと間違えの選択肢に誘導されてしまう。歴史分野では「世界史」分野からの出題も散見。全分野において事象の根本的な理解、背景をしっかりと把握していないと自信をもった解答ができないような出題となっている。

地理：「割合」の理解が必要 【出題例 大問1(エ)】

(c) 次のグラフⅡは、略地図ⅣにあるA及びBで示した地点を首都とする国に、それぞれ進出している日系企業の拠点数の推移についてまとめたものである。これについて説明した、あとの□か、□きにあてはまるものの組み合わせとして最も適するものを、1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

グラフⅡ

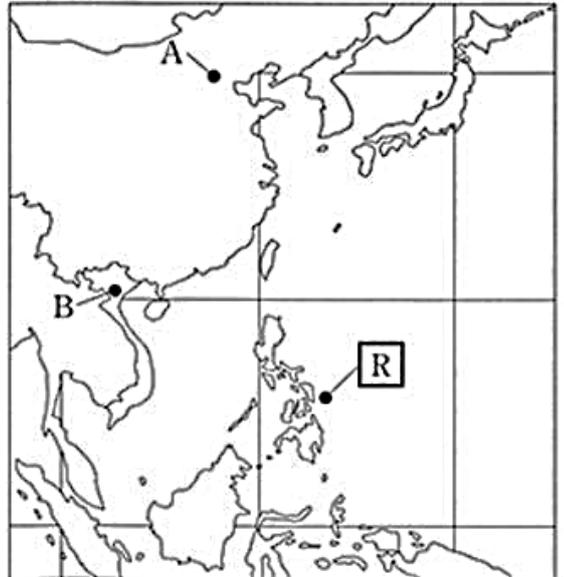


(外務省「海外在留邦人数調査統計」をもとに作成)

A及びBで示した地点を首都とする国について、2013年の日系企業の拠点数に対する、2013年から2017年にかけて増加した日系企業の拠点数の割合を比較すると、両者のうち、□かで示した地点を首都とする□きの方が大きい。

- | | |
|-------------|---------------|
| 1. か：A き：韓国 | 2. か：A き：ベトナム |
| 3. か：A き：中国 | 4. か：A き：タイ |
| 5. か：B き：韓国 | 6. か：B き：ベトナム |
| 7. か：B き：中国 | 8. か：B き：タイ |

略地図Ⅳ



歴史：世界史も出題！ 【出題例 大問3(ア)】

(ア) 一線①に関して、この頃の、世界の様子と宗教に関するできごとを説明したものの組み合わせとして最も適するものを、あとの1～4の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

世界の様子	できごと
A：インダス川流域にインダス文明が誕生し、計画的な都市が建設された。	a：パレスチナにイエスがあらわれ、ユダヤ教をもとに新たな教えを説いた。
B：ローマによって初めて地中海地域が統一され、大きな帝国が築かれた。	b：ムハンマド(マホメット)がアラビア半島でイスラーム(イスラム教)を創始した。

1. Aとa 2. Aとb 3. Bとa 4. Bとb

公民：為替の原理・原則 【出題例 大問6(ア)(i)】

(i) アメリカ合衆国の通貨であるドルと、EUの通貨であるユーロとの為替相場を表した次の表を見て、あとの□あ～□うにあてはまるものの組み合わせとして最も適するものを、1～8の中から一つ選び、その番号を答えなさい。

為替相場の年平均	2014年	2015年
1ドル = 0.7537ユーロ	1ドル = 0.9017ユーロ	

(『世界国勢図会 2017/18年版』をもとに作成)

2015年は、2014年比べて□あに替える動きが強まり、ドルに対するユーロの価値が□いになったことが読み取れる。この為替相場の動きは、ユーロを通貨としている国からアメリカ合衆国へ輸出をする企業にとって□うである。

- | | |
|-----------------------|-----------------------|
| 1. あ：ドルをユーロ い：高く う：有利 | 2. あ：ドルをユーロ い：高く う：不利 |
| 3. あ：ドルをユーロ い：低く う：有利 | 4. あ：ドルをユーロ い：低く う：不利 |
| 5. あ：ユーロをドル い：高く う：有利 | 6. あ：ユーロをドル い：高く う：不利 |
| 7. あ：ユーロをドル い：低く う：有利 | 8. あ：ユーロをドル い：低く う：不利 |

《入試に向けての学習指針》

①基本的な語句や知識をしっかりと暗記・理解すること。新しく学習した時点で完璧に理解しきること。入試直前では遅すぎる。

②用語は単独で覚えるのではなく、他の用語と関連させ、さらに派生させて覚えること。ただの丸暗記だけでは戦えない。

③資料やグラフ、表を正確かつ効率的に読み取れるようにすること。何を問われているのか明確にする。